

マクロ経済分析の基礎知識

市東 亘

shito@seinan-gu.ac.jp

2020年5月17日

前章までの学習で、経済のパフォーマンスを測るための統計指標をいくつか学んだ。これらを用いて、毎年の経済状況や異なる国の経済状況を比較することができる。しかし、我々の目標は、単に経済活動の成果を測定するだけでなく、経済活動の仕組みを解明することにある。

ここでは、今後学んでいくマクロ経済分析において最低限必要な知識を確認する。

概観

(1) 長期分析と短期分析

マクロ経済モデルを大きく2つに分類するのは、価格に関する仮定である。それは、分析対象のタイムスパンの取り方の違いと見て取れる。

(2) 理論分析における実質値

理論分析における実質値は、前章で学んだ実質値とは少々異なる。

(3) 一般均衡分析の方法

マクロ経済学は、経済全体を分析対象とする。経済の一部ではなく、全体を分析する方法は一般均衡分析と呼ばれる。一般均衡分析におけるモデル構築方法について学ぶ。

1 長期分析と短期分析

(1) 長期分析（_____） …… 経済の長期的な動きを分析する。

↓

経済は長期的には均衡へ向かう。
長期的に見れば、すべての価格は伸縮的に調整され、すべての市場は均衡すると仮定することができる。

(2) 短期分析（_____） …… 経済の短期的な動きを分析する。

↓

経済は短期的には不均衡になる場合がある。
 価格も短期的には硬直的。
 失業や景気変動が分析の対象となる。

2 実質値と名目値再考

(1) 統計データの実質値

- 実質 GDP …… 基準時点の _____ で生産量, 支出, 所得を評価.

⇒ _____ で評価している以上, 単位は _____ .

(2) 経済分析に用いられる実質値・名目値.

- 名目変数 …… _____

⇒ 統計上の名目値と同じ.

- 実質変数 …… _____

(例) テレビ 3 台, みかん 5 個, ノート 2 冊を消費.
 (各 1,000 円) (各 100 円) (各 500 円)

- 名目消費_{94年} =

- 実質消費_{94年} =

翌年価格が全て 2 倍になったとする.

- 名目消費_{95年} =

- 実質消費_{95年} =

⇒ 価格などの名目上の変化に、実質値は影響を受けない。

(3) ニューメレル (価値基準財)

- 価値を測る尺度 (基準) になる財をニューメレル (価値基準財) と呼ぶ。
- 上の例では、消費量を _____ で測ったので _____ が価値基準財。
- マクロ経済学では、ある財価格で割るのではなく、 _____ で割って実質値に直す。 _____ は、経済の平均的な財価格だから「 _____ 」という仮想的な財、何個分かで価値を測っている。

練習問題 1.

- (1) 名目貨幣供給量を M 、一般物価水準を P とする時、実質貨幣供給量を求めよ。
- (2) 上で求めた、実質貨幣供給量の意味を述べよ。
- (3) 第 i 財の生産量を y_i , ($i = 1, \dots, n$). その価格を P_i 、一般物価水準を P とするとき、名目総生産量 Y と実質総生産量 y を求めよ。

3 一般均衡分析

経済の一部分ではなく、全体の均衡をすべて考慮した分析. \Leftrightarrow _____

↓

- 経済を構成している全ての _____ を考察する.

\Rightarrow _____

- 経済を構成している全ての _____ を考察する.

\Rightarrow _____

(参考) テキスト p.21, 「家計や企業の最適化行動は明示されず, 暗黙の前提とされている。」

練習問題

- (1) 以下の分析の中から、長期モデルよりも短期モデルを用いるのが適切と考えられるものを全て選びなさい。
- (a) 減税による景気への影響.
 - (b) 少子化の経済効果.
 - (c) 移民政策の経済効果.
 - (d) 選挙の経済効果.
 - (e) 教育改革の経済効果.
- (2) 実質値と名目値に関する以下の記述の中から最も適切なものを1つ選びなさい。
- (a) 名目 GDP は貨幣単位で測られるが実質 GDP は「平均的な財」の個数で測られる.
 - (b) 実質 GDP のニューメールは測られる時点の貨幣である.
 - (c) 名目 GDP のニューメールは基準時点の貨幣である.
 - (d) 理論分析における実質値は、基準時点の価格で価値評価したものである.
 - (e) 理論分析における名目値は、測られる時点の価格で価値評価したものである.
- (3) 一般均衡分析に関する記述の中から最も適切なものを1つ選びなさい。
- (a) 市場や経済主体を省略せず、全ての経済主体と全ての市場の均衡を同時に分析する.
 - (b) 一般均衡分析で用いられるモデルは、特殊ケースではなくより汎用的な環境を想定して構築される.
 - (c) 一般均衡では、全ての経済主体が与えられた条件の下で最適な行動をとっている.
 - (d) 一般均衡分析ではない分析は特殊均衡分析である.

練習問題 解答・解説

(1) 以下の分析の中から、長期モデルよりも短期モデルを用いるのが適切と考えられるものを全て選びなさい。

- (a) (正解) 減税による景気への影響.
- (b) 少子化の経済効果.
- (c) 移民政策の経済効果.
- (d) (正解) 選挙の経済効果.
- (e) 教育改革の経済効果.

解説: 選挙や減税の経済効果は、いずれも景気に関係すること。長期的には価格が伸縮的に調整されて、経済は完全雇用水準の均衡に向かうので、景気に関係する分析は短期モデルを用いることになる。一方、少子化や移民政策は労働力人口に関係しており、これは、完全雇用水準を変化させる政策なので、長期分析の領域となる。教育改革も人口問題と同様で、一人あたりの生産性を変化させることによって完全雇用水準(長期均衡)を変化させるので長期分析が適切。

(2) 実質値と名目値に関する以下の記述の中から最も適切なものを1つ選びなさい。

- (a) 名目 GDP は貨幣単位で測られるが実質 GDP は「平均的な財」の個数で測られる。
(解説: 実質 GDP は基準時点の貨幣単位で測られる.)
- (b) 実質 GDP のニューメレルは測られる時点の貨幣である。
(解説: 名目 GDP の記述.)
- (c) 名目 GDP のニューメレルは基準時点の貨幣である。
(解説: 実質 GDP の記述.)
- (d) 理論分析における実質値は、基準時点の価格で価値評価したものである。
(解説: 「平均的な財」という価値基準財で測る.)
- (e) (正解) 理論分析における名目値は、測られる時点の価格で価値評価したものである。

(3) 一般均衡分析に関する記述の中から最も適切なものを1つ選びなさい。

- (a) 市場や経済主体を省略せず、全ての経済主体と全ての市場の均衡を同時に分析する。
(解説: モデルを抽象化する過程で考慮する市場や経済主体の数を減らすことはある。したがって、問題の文章の前半が間違っている.)
- (b) 一般均衡分析で用いられるモデルは、特殊ケースではなくより汎用的な環境を想定して構築される。
- (c) (正解) 一般均衡では、全ての経済主体が与えられた条件の下で最適な行動をとっている。
- (d) 一般均衡分析ではない分析は特殊均衡分析である。
(解説: 部分均衡分析)